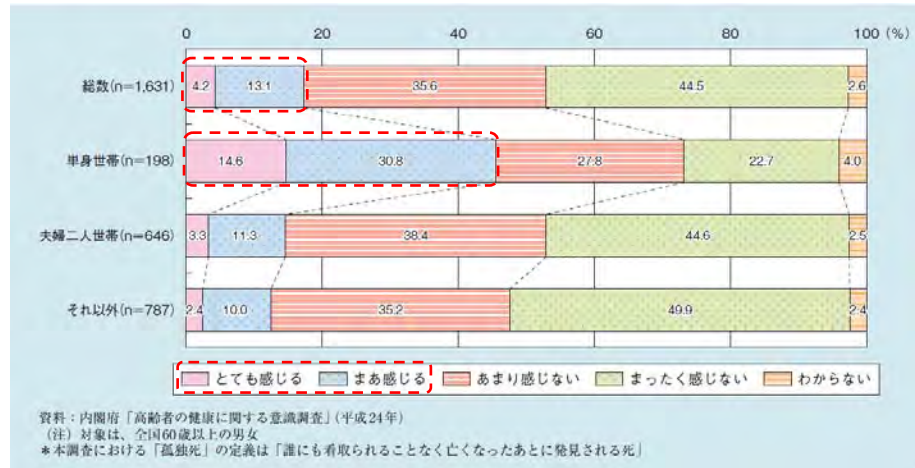


○ 60歳以上の高齢者で、孤独死(孤立死)を身近な問題だと感じる人の割合は、全体では17.3%だが、単身世帯では45.4%にのぼる

【図1-2-35】 孤独死*を身近な問題と感じるものの割合



第3節 団塊の世代の意識

今年の白書に特集として取り上げた「団塊の世代の意識」について、少しご紹介させていただきます。

高齢社会白書 全体構成

- <第1章 高齢化の状況>
 - 第1節 高齢化の状況
 - 第2節 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向
(家族と世帯、経済状況、健康・福祉、就業、社会参加活動、生活環境)
 - 第3節 特集「団塊の世代の意識」
 - ① 団塊の世代の経済状況
 - ② 団塊の世代の就労
 - ③ 団塊の世代の社会参加
 - ④ 団塊の世代の健康・介護
 - ⑤ 団塊の世代の住居
- <第2章 高齢社会対策の実施の状況>

資料は 35 頁でございます。団塊の世代につきましては、ここにいらっしゃる皆様方にご説明するまでもないのですが、「高学歴化」、「サラリーマン化」、「都市化」といった戦後の変化の象徴でございます、消費文化の中で育った、いわゆる「団塊の世代」といわれる方々が 65 歳に達し始めました。

これは、65 歳以上の高齢者の増加数を示したものでございますが、いわゆる団塊の世代の方々が 65 歳

に達し始めたということで、大幅に高齢者が増加することになります。

団塊の世代の意識

[p.35]

○ 平成24(2012)年以降、いわゆる「団塊の世代」(昭和22(1947)～24(1949)年に生まれた人)が65歳に達し始め、今後、高齢者層の大きな比重を占めることになる

【図1-3-1】 65歳以上の高齢者の増加数



資料：平成24(2012)年までは総務省「人口推計」、25(2013)年以降は国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口(平成24年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果をもとに作成

29

< 団塊の世代の経済状況 >

次は資料の 36 頁になります。団塊の世代の方の経済状況でございます。

上のグラフは、団塊の世代の世帯の主な収入源でございます。年金が 53.4%と最も多く、次いで給与が多く 31.6%を占めております。

下のグラフは、世帯収入でございます、240 万円～300 万円未満が最も多く、17.3%を占めております。

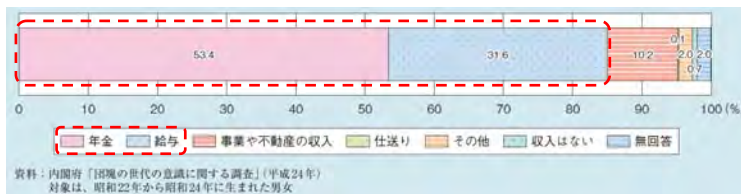
団塊の世代の意識

① 団塊の世代の経済状況

[p.36]

○ 団塊の世代の世帯の主な収入源は、年金が53.4%で最も多く、次いで給与が31.6%
○ 世帯年収は240万円～300万円未満が最も多く17.3%

【図1-3-2】 団塊の世代の世帯の主な収入源



【図1-3-3】 団塊の世代の世帯収入



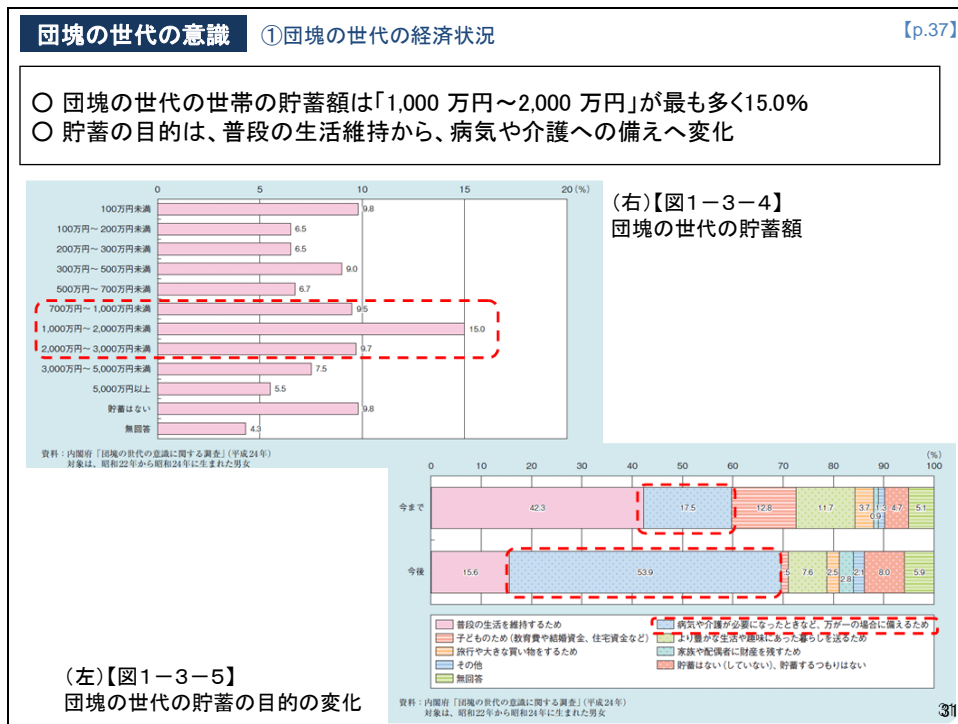
資料：内閣府「団塊の世代の意識に関する調査」(平成24年) 対象は、昭和22年から昭和24年に生まれた男女

30

次が資料 37 頁でございます。団塊の世代の貯蓄額についてまとめたものでございます。

貯蓄額は 1,000 万円～2,000 万円未満が最も多く、15%を占めております。

下の方が貯蓄の目的でございます。この中で、上の方が今までの目的、下の方が今後の目的でございます。今までの目的は「普段の生活維持」が大きなところでございましたが、今後の目的につきましては、「病気や介護に備える」に変化しております。



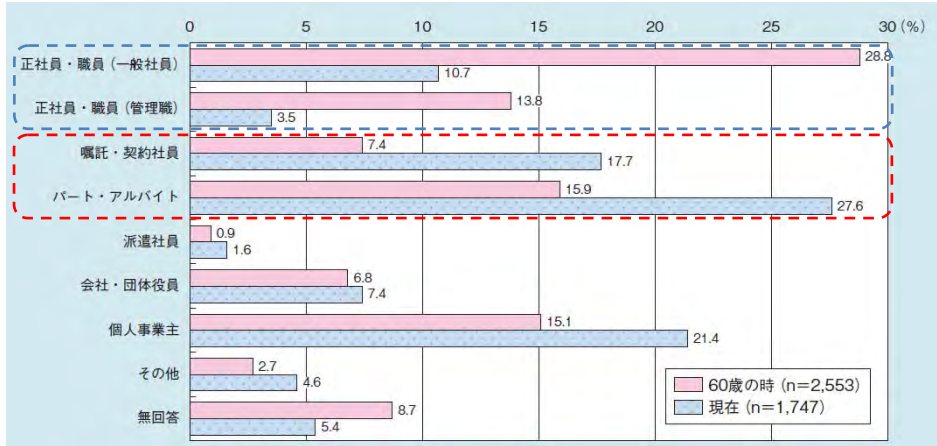
<団塊の世代の就労>

続きまして、資料は 38 頁でございます。団塊の世代の方の就労形態の変化を示したものでございます。

これを見ていただきますと、60歳の時の就業状況を上、現在の就業状況を下の棒グラフでそれぞれ示しております。点線で囲っている部分を見ていただきますと、60歳の時に比べますと現在は正社員・職員が減りまして、嘱託・契約社員、パート・アルバイトが増えている状況が見て取れます。

○団塊の世代の現在の就労形態を60歳の時と比べると、正社員・職員が減り、嘱託・契約社員やパート・アルバイトが増えている

【図1-3-6】 団塊の世代の就業形態の変化



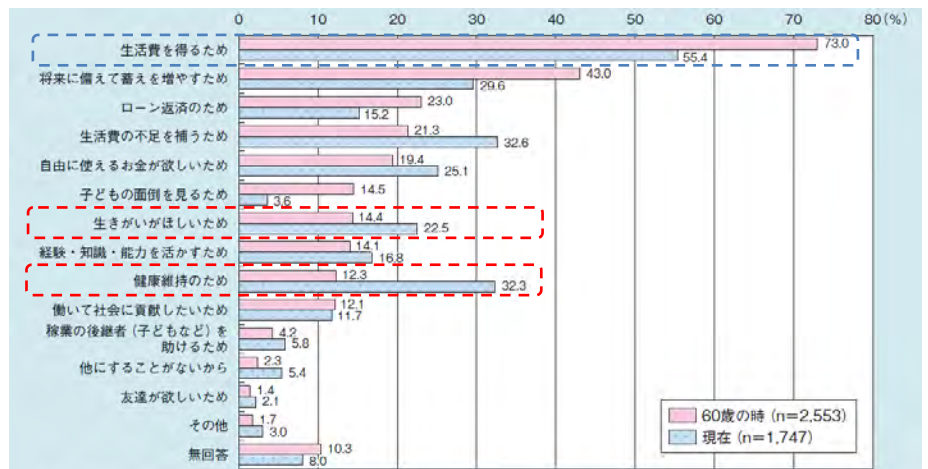
資料：内閣府「団塊の世代の意識に関する調査」(平成24年)
対象は、昭和22年から昭和24年に生まれた男女のうち、60歳の時および(または)現在、仕事をしていると答えた人

続きまして、39頁でございます。これは、団塊の世代の就労目的でございます。これがどのように変化しているかということでございます。

60歳の時、これは上の方の棒グラフでございますが、「生活費を得るため」が最も多く73%となっております。60歳の時と現在で比べますと、現在では、「生きがいがほしいため」や「健康維持のため」など、経済的理由以外の理由が増加しております。

○ 団塊の世代の就労目的を60歳の時と比べると、「生活費を得るため」が最も多いのは変わらないが、「健康維持のため」や「生きがいがほしいため」が増加

【図1-3-7】 団塊の世代の就労目的の変化(複数回答)



資料：内閣府「団塊の世代の意識に関する調査」(平成24年)
対象は、昭和22年から昭和24年に生まれた男女のうち、60歳のときおよび(または)現在、仕事をしていると答えた人